



全学同窓会長就任のご挨拶

教育学部 1980(昭和55)年卒 臼杵 勇人



日ごろより全学同窓会の事業、活動等にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

このたび全学同窓会長を拝命いたしました教育学部同窓会長の臼杵勇人(うすきいさと)と申します。前任の野本会長を引継ぎ、全学同窓会の充実・発展に貢献できるよう、微力ながら、精一杯努める所存ですので、よろしく願いいたします。

さて、「新型コロナウイルス感染拡大防止」のため、新潟大学の卒業式ならびに入学式は中止となりました。現在、新潟大学では、感染症拡大防止の観点から、三密を避けるため、8月12日(水)までの第1学期において、非対面のオンライン授業による特別対応を行っています。6月19日より他都道府県との往來の制限もなくなりましたが、未だ予断を許さない状況です。こうした中、三密回避のため、県内外から大勢が集まる会合の自粛と参加者の健康と安全を第一に考え、大変残念ですが、10月に開催を予定していた「新潟大学と全学同窓会との交流会・講演会」を中止といたしました。幹事として準備を進めていただいた人文・法・経済学部同窓会をはじめ、関係者の皆様の心を思うと言葉もありませんが、これまでのご尽力に感謝申し上げます。

全学同窓会は「母校である新潟大学の発展と社会

への貢献に資すること」、「会員相互の交流と連携及び親睦を図ること」を目的に設立され、今年で15年目を迎えました。全学同窓会は、独自に会費を徴収していません。財源は、学部同窓会からの賦課金と分担金のほか、同窓会員の皆様の賛助会費、そして企業様からの協賛金で成り立っています。この財源で、広報紙「雪華」の発行、「メールマガジン」の配信など、同窓会や大学に関する情報をお届けしています。

加えて、前述の「交流会・講演会」の開催、学生の活動を支援する「雪華支援事業」、母校である新潟大学支援事業等を行っています。同窓会員の皆様からの貴重な賛助会費は大学ならびに学生に還元されております。全学同窓会の総会員数は14万人に上ります。会員の皆様の変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、会員の皆様のニーズを的確に把握し、母校の発展・学生への支援に資する全学同窓会活動を充実したいと考えています。ご多用とは存じますが、時には「雪華」、「ホームページ」、「メールマガジン」等をご覧いただき、全学同窓会へのご要望やご意見をお寄せいただければ幸甚です。皆様のお声を活かし、少しでも親しみや繋がりを感じていただける全学同窓会にしていきたいと考えています。

ご理解・ご協力を重ねてお願いいたします。

CONTENTS

- i 全学同窓会長就任のご挨拶
- ii ● 同窓会の皆様へ ● 2019年度 全学同窓会雪華支援事業
- iii ● 平成30年度会計報告
- iii~v 特集 新潟大学の産学連携・社会連携
- vi~vii ● 私たちは新潟大学を応援しています
- vii ● 「新潟大学カード」入会のご案内



購読希望の方は以下の要領でメールをお送りください。

メールのタイトル 同窓会メルマガ配信希望

メールのあて先 n-zendoso@adm.niigata-u.ac.jp

メールの本文

- 配信を希望するメールアドレス
- あなたのお名前 ● 卒業(修了)年と学部(大学院)



同窓会の皆様へ



令和2年2月1日より第16代学長に就任しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の出身は新潟県糸魚川市です。1976年に本学医学部に入学しましたが、卒業後に大学院(医学研究科)に進学したため、学生生活の10年間を新潟大学で過ごしました。大学院修了後は、岩手医科大学と北海道大学で解剖学の教育と研究に10年ほど携わりましたが、1995年に本学に戻り、以来、教員としては25年間、研究・教育とともに、医学部長や理事として新潟大学の管理運営にもかかわらせていただきました。このように、学生生活と合わせることで35年を過ごしてきた新潟大学の学長という職は、私にとって身に余るものですが、大学全体の発展のために力の及ぶ限り努力する所存です。

昨今の国立大学は競争と経営改革が求められています。このような時代には、次世代の「日本の大学」の役割を見据えながら、明確なビジョンのもとに新潟大学としての「個性

と魅力」を見出して推進することが重要です。

また、グローバル化が進む社会の発展をイメージし、そのために必要な人材を、地域を含めた社会と連携しながら育成することが求められています。こうした観点から、最近、いくつかの全学共同教育研究組織(環東アジア研究センター、佐渡自然共生科学センター、日本酒学センター)を発足させました。今後は、日本海対岸のアジアと、その向こうにある世界全体に開かれた「知のゲートウェイ」として、新潟大学の役割をさらに明確にしていきたいと思っております。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大で世界中が厳しい状況にあります。この難局についても、新潟大学のリソースを最大限生かしながら真摯に向き合い、それを乗り越えながら、現代と未来に貢献する新潟大学を築きあげたいと思っております。

なお、このコロナ禍に対して、同窓会の皆様方からすでに多数のご寄附をいただいております。ここで感謝申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご発展をお祈りするとともに、本学へのさらなる温かいご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

新潟大学長

牛久保男

2019年度 全学同窓会雪華支援事業

2019年度は25団体から事業の応募があり、慎重な審査の結果、下記のすべての団体を支援いたしました。雪華支援事業は科学研究費補助金にも似た公募型の支援事業です。各団体の過去の活動実績や新規に実施しようとする事業内容が全学同窓会の活動理念に合致するか否かを審査の際の重要なポイントにしています。

バレーボール部	男子は北信越大会優勝、インカレ出場に向け、女子は二部上位入賞、一部昇格に向けて、より活発な練習を行うための用具購入費及び遠征など強化費のため	オリエンテーリング部	2019年度に日本学生オリエンテーリング選手権大会入賞のための練習環境の充実及び第33回新潟大学オリエンテーリング大会開催の資金補助
自転車競技部	全国大会出場者輩出に向けた適切な環境下での強化合宿の推進	競技スキー部	インカレ女子1部昇格、インカレ男子2部昇格、第40回全日本国公立大学スキー大会、第47回全国学生岩岳スキー大会において、男子クラブ総合優勝と男女ともに個人での上位入賞を目標とし、それらを達成するための冬季の実践的練習において発生する経済的負担の軽減
合唱団	昨年度に引続き、2年連続9回目の全日本合唱コンクール全国大会出場、及び全国大会において金賞を目指す。また、第55回定期演奏会や訪問演奏などに向けて充実した練習を行う	ラクロス部	東北学生ラクロスリーグ戦での優勝及び全国大会出場に向け、より多くの試合経験を積むための遠征費
音響工学プロジェクト	安全性が高く、マイクに最適な抑制アルゴリズムを搭載した補聴器の開発	リズム体操部	年間を通して行われる体操発表会開催場所への遠征費
管弦楽団	第9回東京公演開催	基礎スキー部	全国大会における上位入賞を目指した練習の質の向上
ヨット部	全日本学生ヨット選手権大会出場に向けた活動の強化、セール等の購入	体操競技部	安全性及び技術向上を目的とした着地マットの購入について
クラシックギター部	第56回定期演奏会における会場代や業者に依頼する照明費などの経費	吹奏楽部	訪問演奏にかかる楽器運搬費
ラグビー部	全国地区対抗ラグビー大会優勝に向けての練習に使用するコンタクトバッグやボール、テーピング等消耗品の必要経費。また、スクラム強化に必要なスクラムマシンの修理費	科学技術研究部	複雑化かつ難化する大会で勝ち進み、NHK優勝そして上位大会であるABUロボコン(Asia-Pacific Robot Contest)主催、アジア太平洋放送連合)優勝にむけブラシレスモータの初期導入費用。また、特に厳しいルールであった今年度大会による破損部品の補充
ハンドボール部	北信越学生ハンドボール春季リーグ戦、東日本学生選手権大会、北信越学生秋季リーグ戦、その他各種大会の上位入賞に向けた練習の強化	陸上競技部	昨年までの貴会からの御支援により向上した、個々の選手の陸上競技の技術力の維持と他大学との合宿や専門家によるスポーツ科学のシンポジウム等を開催等による、下層選手のポトムアップを含めた部全体の實力の向上を図る活動について
卓球部	「新潟大学オープン卓球大会」を始めとする卓球部の新潟県・市卓球連盟への協力および各種大会における活躍、強化練習会のトレーナー派遣による新潟県のジュニアの強化・育成、県内学生のレベルの向上を目的とした県内大学強化大会の開催	硬式野球部	関甲新学生野球連盟2部優勝・1部昇格に向けた更なる技術向上のための練習環境の整備
探検部	新たなフィールドを開拓するための技術及び知識の向上に向けた講習会と遠征	学生フォーミュラプロジェクト NEXT.Formula Project	フォーミュラカー NU-20 の開発・製作
学生団体CANS	小学生児童を対象とした企画実施の記録、動画編集、団体外部への発信を目的とした撮影機器等の調達費	附属図書館(中央図書館)	中央図書館のアカデミック・スキルズ関係図書整備充実
		附属図書館(旭町分館)	海外挑戦に向けた医療系学修の書籍整備

新潟大学の 産学連携・社会連携

地域創生推進機構の設置

科学技術・学術を通して、新しい暮らしやコミュニティを創生します

新潟大学は、「アカデミアの中の大学」から「社会の中の大学」へ、おおきな改革を進めています。その一環として、産学連携部門、社会連携部門、知的財産部門、ビジネスプロデュース室（以下、BP室）からなる地域創生推進機構を設置いたしました。研究活動の発信にとどまらず、地域社会や企業と積極的に新たな連携を企画提案・協働推進を行うプロモーター集団の組織です。

研究成果を社会実装するために、本学では「共同研究講座（部門）制度」を作りました。さらに、産業界や地域からの窓口を地域創生推進機構に一本化し、企業等が安心して本学に投資・協働できるようにしました。この制度を活用する企業は増えており、数年で共同研究費が2倍近くに増加しました。

新潟県内には人材流出や高齢化・過疎化等に悩まされている地域があります。本機構は、関係する自治体や国機関等とも連携し、地域の歴史ある個性を発揮させるために、新しい地域コミュニティの創生を目指す活動も展開しています（例えば、中山間地農村コミュニティ（佐渡里山エリア）、ものづくり産業コミュニティ（燕三条エリア）、新潟酒蔵コミュニティ等）。単なる先端科学技術の導入や企業誘致ではなく、地域の方々との対話を通して、地域が持続的な発展を生み出すための活動を総合大学としての文理の知とネットワークを駆使して進めています。同窓生の皆様にも、ご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

新潟大学地域創生推進機構長 川端 和重



平成30年度会計報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

令和元年度第1回全学同窓会理事会(6月27日)において30年度一般会計の監査結果報告が行われました。審議の結果、承認されました。

収入の部

費目	予算額(円)	実績(円)
繰越金	2,548,474	2,548,474
賦課金	270,000	270,000
分担金	5,000,000	5,000,000
協賛金	1,650,000	1,890,000
一般広告掲載	300,000	300,000
賛助会費	4,900,000	4,603,001
受取利息	20	23
合計	14,668,494	14,611,498

支出の部

費目	予算額(円)	実績(円)
大学等支援費	100,000	89,800
学生支援費	3,500,000	2,960,000
周年事業基金	2,000,000	2,000,000
広報紙	2,000,000	1,635,120
会員等サービス事業	550,000	403,392
事務局費	5,360,000	4,748,401
予備費	1,158,494	0
小計	14,668,494	11,836,713
次年度繰越金	0	2,774,785
合計	14,668,494	14,611,498

1

燕三条医工連携の取り組み

BP室は、地域の企業、自治体、金融機関等で構成されるコンソーシアムにより新たなビジネスの創造、製品開発等を支援することを目指しています。その中でも2019年2月より開始されました「燕三条医工連携事業」と「燕三条医工連携コンソーシアム」は、参加企業が40社以上、開発に着手している製品数が11となっており、さらに2020年4月に新潟商工会議所とも同じ医工連携事業に関する共同研究開発契約を締結しました。

医工連携事業では、世界ブランドである燕三条の金属加工業の将来を見据え、新たな医療関連製品を開発するという方向性が産業側、大学側とで一致しました。実際に製品を本学医歯学総合病院で評価するような場合に必要の倫理審査委員会の手続き等もBP室と関連部局が連携し、承認・実施の流れを実現するようにしています。企業からは、「想像以上に早いペースで販売に向けた取り組みができる」等の評価をいただいています。

世界ブランドの燕三条の企業でもリクルート活動では苦戦しています。本プロジェクトは大学生向けのデザインコンペを開催し、大学生の企業・工場見学も実施しています。

燕三条医工連携コンソーシアムの立上

①燕三条の3団体と新潟大学の連携、地域の関係機関の協力による地域支援
②医工連携事業の“中心”を地域企業とする新たな産学連携とまちづくり

燕三条医工連携コンソーシアム

- 三條工業会
- 三條商工会議所
- 燕市医療機器研究会
- 三條市、燕市他自治体
- 三條信用金庫
- 協栄信用組合
- 新潟大学
- 医療機器等の販社
- システム開発等の企業

例：新型簡易トイレ

病院等の医療機関

特養等の介護施設

その他の販売先

- 例：新型簡易トイレ
- ・アウトドア用品関係
- ・防災用品関係
- ・住宅関係

真の強さを生み出す

新潟大学

- 医学部
- 医歯学総合病院
- 歯学部
- 工学部
- 経済学部
- その他の学部
- 研究機関等

製品企画
マーケティング
評価、改善提案等

地域創生推進機構

医工連携事業の拡大に向けた取組

令和元年8月23日（金）学生向けデザインコンペの開催
於）燕三条地場産業振興センター

写真：工場見学（左）とコンペ表彰終了後の記念写真（右）

2

里山創生「佐渡モデル」の構築

BP室は、医工連携事業の他、文部科学省のDESIGN-iプロジェクトを担当しています。新潟大学と佐渡市による佐渡島の地域社会課題解決を目指し、2019年度より文部科学省DESIGN-iプロジェクト（科学技術イノベーション（STI）による地域社会課題解決）の採択を受けました。本プロジェクトを通じて、地域の活性化に寄与し、地域に貢献することを目指しています。本プロジェクトは、里山創生「佐渡モデル」の構築を目指し、里山地域で生物多様性と農業技術革新が共存するエコロジカル・コミュニティのモデル構築を目指しています。2019年度の実績は、各農業集落での対話等による地域の未来ビジョンや課題の設定、解決策の仮説の設定・検証等です。20年度以降、持続的・発展的な取組とするため、専任の組織新設やスタッフを配置し、新たなPJ基金を立ち上げました。その概要については、https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/future_community_foundation/ をご覧ください。

リージョナルデザインチームの結成

地域のアクターを核に、産学官等から構成される、9名のリージョナルデザインチーム(RDT)を結成し、そのRDTが担っています。2019年度は、島内2か所の農業集落をフィールドとして選定しました。

課題解決の実装を視野に
2つのフィールドを選定

歌島地域
島内に最も自然に耕作可能な丘陵地帯

新井地区
新井島の多様な生物多様性のホットスポット

参加メンバー

参加法人・研究機関

農研機構 water-cell サラダラボ 新潟大学

新潟県立工業高等専門学校 都市工科大学 高田研究所

2019年度取組の概要

2019年度の実績は、各農業集落で里山未来会議4回、ソリューション探索会議5回開催し、地域の未来ビジョンや課題の設定、解決策の仮説の設定・検証等です。次年度以降、持続的・発展的な取組とするため、専任の組織新設やスタッフを配置し、新たなPJ基金を立ち上げました。（2020年度に佐渡に当該PJの活動拠点を設置予定）

里山未来会議
地域住民と技術者等が集う対話型協働探究の場

ソリューション探索会議
さまざまなシーズの探索課題の技術的解決策の検討

あなたの期待が
里山農業の未来を
一歩近づけます

「里山農業の未来デザインPJ 応援寄附金」をリリース

3

大学との共同研究

人材不足が共通かつ最大の課題である現在、どの企業も優秀な人材を確保したい、また、先進の技術を安く・早く手に入れたと考えています。先進技術の知見をもつ大学の研究者と一緒に共同で研究することは、それらを実現するひとつの重要な手段です。

新潟市にある㈱ニューメディア新潟センターと本学は、「画像処理技術による交通量推定に関する研究」を約1年半かけて実施しました。ケーブルテレビで既に配信されている道路のライブカメラ映像から、車の速度を自動計測し、通常/混雑/渋滞という渋滞情報として付加することで、より地域に根付いたサービスを実現しました。企業側だけでは開発できなかった高度なサービスを、大学が保有している先進の画像処理技術で短期間に実現し、企業のサービスの付加価値を高めた事例です。

他にも多くの共同研究事例があり、企業からは、「我々の思いつかないような技術があり、それらを使わせていただくことで、スピードアップと解析精度の両立が達成できつつあります」、「企業内で保有しない技術を産学連携で得ることができ、早期の開発を実現しました」等の良好な評価をいただいています。



ライブカメラの映像から渋滞情報を自動検知するシステム



塩害環境測定用モルタル「コロルサーチ」



ICTを活用した未来の介護施設

「つながる研究」(シーズ集)

～課題解決のきっかけに! 近くにあった研究と人材～

2019年3月、新たに『「つながる研究」紹介2019年版』冊子を作成しました。本学の多分野にわたる研究の中から、全国の産業界・企業が抱える技術的課題や新潟県をはじめ各自治体等が抱える地域課題の解決に資する『「つながる」研究内容(97件)と併せ、連携も求める研究者を紹介しています。さらに、2020年3月には、2019年追加版(76件)を作成し、現在も拡充に努めています。様々な企業・自治体等と研究者のつながりを支援し、新たな付加価値や製品・サービスの創出、生産性向上のお手伝いをいたします。本冊子は、企業の方々や、自治体等の方々に、本学の研究概要を理解していただき、課題解決への可能性を感じていただくために、読みやすく、わかりやすい内容と体裁にいたしました。

- ・本学との共同研究に関しては、
<https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/> をご覧ください。
- ・新潟大学産学連携協力会に関しては、
<https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/> をご覧ください。
- ・「つながる研究」の紹介は、
<https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/seeds/search/> をご覧ください。



「つながる研究」紹介 2019年版表紙



「つながる研究」紹介 研究紹介例

掲載している研究にご興味をお持ちになりましたら、下記までお問い合わせください。

新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター
TEL : 025-262-7554
E-mail : onestop@adm.niigata-u.ac.jp

私たちは新潟大学を応援しています

令和元年度 協賛会員(企業) ※匿名希望1団体

アートホテル新潟駅前



旭カーボン株式会社



株式会社 アステック

株式会社
アヅマテクノス



ANA クラウンプラザホテル新潟



EY 新日本有限責任監査法人
新潟事務所

株式会社 磯部ハイテック

株式会社 牛木組



株式会社
宇都宮製作所



エアブラック株式会社



金井度量衡株式会社



共立印刷株式会社

株式会社 考古堂書店



株式会社 コロナ



近野茂 公認会計士事務所

サトウ食品株式会社
2020.8.1より社名変更(旧:佐藤食品工業株)



有限会社 信成科学

株式会社 新宣



進展工業株式会社

社会福祉法人新潟市社会事業協会
信楽園病院



J A 新潟厚生連



株式会社
高田建築事務所



医療法人 高田西城会
高田西城病院



一般財団法人
竹田健康財団



天井気流がココチイイ



夏も冬も
Wで快適

コロナのエアコン
Wシリーズ

株式会社 コロナ 〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7 <https://www.corona.co.jp/>

For Earth, For Life
Kubota

農業の元氣は、クボタから。

株式会社 新潟クボタ

代表取締役 吉田 至夫



〒950-8577
新潟市中央区鳥屋野331
TEL: 025-283-0111
FAX: 025-283-0121
<https://niigatakubota.co.jp/>



田辺建設株式会社

玉源株式会社



株式会社新潟クボタ

新潟県信用組合



新潟県土地改良事業団体連合会

新潟サンセルフ



新潟信用金庫



新潟大学生生活協同組合



新潟ダイヤモンド電子株式会社

新潟メスキュード株式会社

日東アリマン株式会社

株式会社博進堂



株式会社 畠山種苗園



株式会社 パイオニア

株式会社 ヒウラ

株式会社
ひらせいホームセンター

新潟税理士法人
深滝合同事務所



株式会社 福田組



富士印刷株式会社



藤木鉄工株式会社



株式会社 不二産業

有限会社
平成マネジメントサービス

北越工業株式会社



八洲設備工業株式会社



株式会社
リンコーコーポレーション

協賛会員を募集しています

全学同窓会は14万人の卒業生、在学生、教職員など新潟大学に関わった全ての方々を会員とする組織です。新潟大学の発展や在学生の学生生活を支援するとともに会員相互の交流と親睦、そしてご支援いただいた企業様との連携及びネットワークの構築を図り、垣根をこえた横断的な同窓会活動を目指しています。
“オール新大”でつながる組織 全学同窓会広報紙「雪華」は全学部の卒業生をはじめとし、県内公共機関などへ92000部が配布されています。(詳しくは全学同窓会事務局：025-262-7891)



自利 トハ 利他 ライフ
新潟税理士法人 深滝合同事務所

皆様が、豊かな人生を享受するためのお手伝い

代表社員(税理士) 深滝 信夫
所 長(税理士) 磯部 利行
税 理 士 上田 英明
税 理 士 根本 昌幸
公認会計士 高橋 登
社会保険労務士 桑野 光洋



<事業内容>

- 法人税・所得税・相続税・各種会計指導
適性税制・公益法人会計・税務申告
各種税金申告相談等
- 経営計画・資金計画・経営指導
人材育成・資産運用・各種法人設立
生命保険・損害保険等
- 公益認定・移行申請手続支援業務
- 指定管理者申請手続支援業務

新潟税理士法人 深滝合同事務所
〒950-2024
新潟市西区小新西3丁目15番7号
TEL 025 (267) 4843
FAX 025 (265) 3314
<https://niigata-zeirishi.tkcfn.com/>

新潟大学カードに 入会しましょう



新潟大学の卒業生なら誰でも入会できる三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)のクレジット機能付きVISA国際カードをご案内します。いろいろな特典がございますので、この機に是非ともご入会ください。



カード会員の特典

年会費無料
1

海外旅行
傷害保険
(最高3,000万円)
2

国内旅行
傷害保険
(最高3,000万円)
3

安心の24時間
コールサービス
4

海外の現地情報を
日本語でサポート
5

国内主要空港とイノ
ウエ(旧ホノルル)国
際空港で利用できる
ラウンジがあります。
6

新潟大学カードの提
示により新潟大学図
書館の利用(閲覧や
図書の貸出)が可能
です。
7

新潟大学からのお知らせ

経済学部銘板上掲式を開催しました

本学五十嵐キャンパス人文社会科学系棟にて、令和2年4月1日(水)に経済学部銘板上掲式を開催しました。

経済学部は、経済学・経営学を中心に人文社会科学の専門知識を身に付け、国際的な視野に立って地域再生など社会の課題を解決できる人材を育成します。総合的な判断力や社会性を身に付けるために、経験豊かな社会人や異文化の留学生と共に学ぶ機会を充実させるとともに、幅広い分野で活躍できる指導者と、地方を支える中核人材の育成によって地域社会と国際社会に貢献します。

式では、牛木辰男学長、山崎剛志経済学部部長の挨拶の後、銘板の除幕が行われ、新学部のスタートとなりました。



創生学部が文部科学省の「大学等におけるインターンシップ表彰」で最優秀賞を受賞しました

文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」において、本学創生学部「フィールドスタディーズ」が最優秀賞を受賞しました。

本表彰は、平成29年度に創設された文部科学省の「大学等におけるインターンシップの届出制度」に登録している取組の中から、学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業等に普及するのに相応しいモデルとなり得るインターンシップを、グッドプラクティスとして文部科学大臣が表彰し、その効果を広く普及することを目的として実施されたものです。

令和元年度は、申請大学58校の中から、最優秀賞1件、優秀賞3件、選考委員会特別賞1件が選ばれ、受賞大学に表彰状が贈られました。

創生学部の授業科目であるフィールドスタディーズは、初年次の転換教育として、地域や産業界での体験的学修を通じて、産業・地域での課題を理解し、「与えられた学修」から「主体的な学修」へ学びの意識転換を促すとともに、その後に選択する専門領域への関心を焦点化させる挑戦的な取組です。

今回の選考では、教育課程における位置づけやねらいが明確であること、教育的効果の把握をインターンシップ終了時点にとどまらず継続的に実施していること、「学修ハンドブック」を教職協働で作成し担当教職員の共通理解と安定した教育の質が確保されていること等が優れた点として評価されました。



新潟大学全学同窓会からのお知らせ

新潟大学・全学同窓会交流会の開催中止

2020年10月17日(土)に予定していた新潟大学・全学同窓会交流会の開催の可否について、新潟大学と全学同窓会は慎重に検討を重ねてまいりました。その結果、新型コロナウイルス感染拡大を防止するためのいわゆる3密の回避、参加者の安全確保等を総合的に判断し、誠に残念ではございますが、開催中止を決定いたしました。2021年度の開催も未定ですが、交流の機会は大変重要ですので、開催に向けて努力したいと存じます。今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

雪華支援事業の公募中止

新型コロナウイルス感染症が拡大し、ワクチンや治療薬供給の見込みも立たないことから、2020年度中の学生の課外活動の再開は大変難しい状況です。こうした状況を鑑みると、雪華支援事業に関する適切な事業申請も公平な審査も困難と考え、2020年度の公募を中止することといたしました。皆様からの賛助会費を原資とする2020年度の雪華支援事業予算分については、積み立てておき、2021年度以降の近い将来に、学生支援に充てたいと考えています。以上の事情をご賢察いただき、皆様におかれましては、現役学生の活動支援に充てるべく、引き続き賛助会費の納入をお願い申し上げます。

新潟大学カードから賛助会費を納入されている皆様へ

このたび、クレジットカードに関する法律(割賦販売法)の一部改正にともない、新潟大学カードからの賛助会費の振替ができなくなり、カードからの決済は、令和2年1月振替分をもって終了いたしました。

これまで新潟大学カードから賛助会費をお納めいただいている会員の皆様には、賛助会費納入の口座振替への移行(カード入会申込時にご指定の金融機関口座からの振替)について、8月中旬頃にあらためてご案内を差し上げます。

ご不便をおかけいたしますがご理解、ご協力をお願いいたします。

広報紙「雪華」のバックナンバー

全学同窓会広報紙「雪華」のバックナンバー(PDF版)は、下記のURLからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。
<https://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/sekka/>

運営委員会広報部より:ステイホームの間、今春出版された「六華寮に春が来た」(菅村洋治(1967年医学部卒)著)を拝読いたしました。コロナ禍の重苦しい雰囲気の中、久しぶりに清々しい気分を味わいました。本書で紹介されたエピソードの数々は1960年代の寮生活を中心に描かれておりますが、当時の新大や社会的背景を垣間見ることでもでき、資料的価値もあります。気取らない文章はリズムがあって小気味よく、短時間で読了いたしました。濃厚で濃密で、ちょっぴり暑苦しい「青春もの」を愛好する方にはオススメの一冊です。

新潟大学全学同窓会

事務局:〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
 TEL 025-262-7891 FAX 025-262-7892
 E-mail dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp
<https://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/>